

—知恵 11章・22~12・2、2テサロニケ1・11~2・2、ルカ 19章・1-10—

(そのとき、)イエスはエルサレムに入り、町を通っておられた。そこにザアカイという人がいた。この人は徴税人の頭で、金持ちであった。イエスがどんな人か見ようとしたが、背が低かったので、群衆に遮られて見るができなかった。それで、イエスを見るために、走って先回りし、いちじく桑の木に登った。そこを通り過ぎようとしておられたからである。イエスはその場所に来ると、上を見上げて言われた。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。これを見た人たちは皆つぶやいた。「あの人は罪深い男のところに行って宿をとった。」しかし、ザアカイは立ち上がり、主に言った。「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します。」イエスは言われた。「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」 —ルカ 19章—

木に登る

知恵の書は、復活思想がまだ確立していなかった旧約時代、4の2世紀頃、「復活」および「永遠のいのち」の記述がみられる貴重な書として旧約聖書の「あたま」と言われ、全ての被造物は最終的に、幸せになるために、愛されて創造されたと教えています。これを信じて生きるものが神の摂理に対する信仰なのですが、今、幸せだからと言って慢心してはいられません。

最終的な幸せとは、此の世限りの幸ではなく、神を心に戴くこと、「永遠のいのち」を戴いて神と共にいることだからです。さて、今日の福音書にはザアカイが登場します。彼は、ローマに納める税金の徴収を請け負う徴税人で、同胞からは敵に与する裏切り者として嫌われ、差別の中で孤立している人でした。

金持ちでしたが靈魂の空虚さを満たすことはできないでいた彼は、イエスの評判に、心が動きまわす。しかし、差別という闇の中にいたザアカイにして「イエスを見ること」が出来ないもう一つの闇「木に登る必要があったのでした。」

ザアカイと同じように、私たちは幸せを求めて世の荒れ野を彷徨っている信仰者として、主に心惹かれながらも、未だにイエスと出会うことが出来ないでいる闇の中にいるなら、その闇を克服するために**登る木**を捜さなければなりません。

ここに、主による啓示の木があります。

清い心で、利己主義を捨てて私を愛し、私があなただちに求める自己放棄のうちに私を見つけなさい。もう罪を犯してはならない。悪を行うことをやめ、善を行うことを学

ぶように。正義を探し求め、虐げられている人びとを助けなさい。この荒れ野と不毛の地を歓喜させなさい。あなたたちの生ぬるさに火をつけて、燃え盛る炎としなさい。無関心を捨てて熱意に置き換えるように。

これらの事を全て行いなさい。こう言えるようになるために。

『私は贖い主を探し求め、そのお方を見出した。そのお方はいつも私の傍らにおられたのに、自らの闇が邪魔をして、そのお方が見えなかった。ああ、神に栄光！主は祝されますように！これ程まで盲目だったとは！』

そして私は、あなたたちが生きることが出来るように、私の指針を守り、宝のように尊ぶことを思い起こさせる」

木に登った私に、主が声を掛けてくださいます。「今日はぜひ、あなたの家に泊まりたい」

2022年10月30日
主任司祭 昌川信雄